

## 柱脚滑り実験の報告

### 1) 実験の概要

伝統的な構法で建てられた木造建築物の特徴のひとつである、礎石建ての柱脚仕様を対象として、柱脚と礎石との摩擦係数（主として動摩擦係数）、滑り量などを実験的に明らかにする。

実施時期	2010/7/20～2010/7/30	2010/9/13～2010/9/24
目的	礎石種類を変えた場合の摩擦係数や滑り挙動の変化を調べる。	耐力壁の量を変化させたときの性状について調べる。また、1F床の付加重量の有無による滑り挙動の違いを調べる。
試験体	4本柱、柱脚部のみ（図1）	6本柱、乾式土壁パネル付（図2）
重量	4.0tonf	頂部：10tonf→4tonf, 1F床：0.4tonf
礎石	礎石3種類（切り出し、細（6枚）、粗（3枚））、コンクリート、テフロンシート	びしゃん仕上げ（細（6枚））
入力動	正弦波 1Hz, 2Hz, BCJ-L2 波	正弦波 1Hz, 2Hz, BCJ-L2 波, JMA 神戸波
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振動台実験と同条件で静的载荷を実施</li> <li>・礎石ごとの粗さ計測を実施</li> </ul>	



図1 4本柱・柱脚部だけの試験体（7月）



図2 6本柱の軸組試験体（9月）

### 2) 実験で得られた成果

7月の実験では、礎石の種類による滑り挙動の違いを検証するための基礎データを得ることが出来た。一方、9月の実験では、耐力壁や上下の重量バランスが滑り挙動にどのように影響するかを調べることが出来た。今後、2度の実験で得られたデータを詳細に分析するとともに数値シミュレーションを行って、礎石建て構法による伝統木造建築物の地震時挙動について検討を進める。